

成城学園創立100周年・成城大学文学研究科創設
50周年記念国際シンポジウム

映画と美術

成城大学・パリ第1大学・パリ第8大学のアートと映画の研究において

が 出会うとき

第一級の研究者による国際シンポジウム

いかに映画はアートの定義に関係するのか。
いかにアートは映画の展開に関係するのか。
そして、映画とアートが連携するとき、いかに映画とアートの現在に新展望を切り開けるのか。

2017年

3月11日 10:00▶17:30
成城大学3号館311教室

使用言語:仏語または英語、ただしすべての発表には日本語訳が映写されます。

第一部「アートから映画へ」(10:00-12:30)

- ①「アメリカの娯楽のヨーロッパの芸術に対する勝利/その包摂:『巴里のアメリカ人』(ヴィンセント・ミネリ、1951)の場合」
木村建哉(成城大学准教授)
- ②「映画はアートと文学を基にして — エリック・ロメール『パリでランデブー』第一話から」
小河原あや(成城大学講師)
- ③「ソフィ・カルの映像作品 — 自己の苦痛へのまなざし」
松本良輔(成城大学文学研究科後期博士課程)
- ④「実写とアニメの狭間で — 佐藤雅晴のアンフラマン」
北山研二(成城大学教授)

第二部「映画からアートへ」(14:00-16:30)

- ①「動きとスクリーンの出会い」
フランソワ・スラージュ(パリ第8大学教授)
- ②「アニェス・ヴァルダの『アニェスの浜辺』の冒頭 — 自画像としてのインスタレーション」
ジョゼ・ムール(パリ第1大学教授)
- ③「映画的なものの演出」
ジャシント・ラジェイラ(パリ第1大学教授)
- ④「映画におけるアートのもの」
— デヴィッド・フィンチャー『ベンジャミン・バトン 数奇な人生』を例にして
ドミニク・シャトー(成城大学客員教授・パリ第1大学名誉教授)

第三部(16:40-17:30)

討論会

連絡先

文芸学部共用研究室
☎03-3482-9412
文学研究科
✉bungei55@seijo.jp

背景の画像の出典

映画『アニェスの浜辺』より



SEIJO GAKUEN
100th
since 1917

